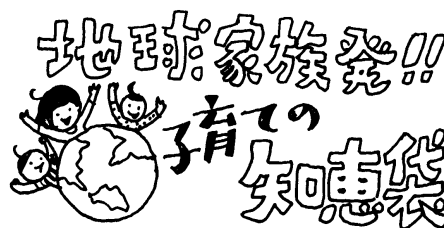


保育園での異文化体験エピソード



その8 当たり前前のごとが…



イラスト・うつろあきこ

日系ブラジル人のお母さんは、日本はきれいいで、きちんとしていると感じたそうです。そして、保育園では裸足ですごすこと、靴が外履きと内履きにわかれていることに驚いたそうです。

私たちにとっては当たり前のごとですが、そうではないということがあるのですね。

また、食事のバランスがとてもよいことに感心したそうです。ブラジルの保育園では、家からパンやビスケットなどを持ってくる場合と、園に置いてある場合があるそうです。

私の園では、多くの日系ブラジル人の方を受け入れていることもあり、日本語とポルトガル語が理解できる職員を採用しています。そして、まだ日本にはこうした考えがあまり定着していませんが、「母語教育」を取り入れることを模索しています。

(ユリア／愛知県碧南市・へきなん保育園園長)

「地球家族ネットワーク」へのお誘いとエピソードのお願い

保育は、世界中の人と仲よく生活できること（平和）を伝える役割があります。

そこで、国際交流や外国籍の子どもたちの保育について情報交換をしたい方は、「地球家族ネットワーク」に参加してみませんか？！

また、外国籍の子どもを受け入れて、心に残るエピソードがありましたら、ぜひお寄せください。

全私保連 保育国際交流運営委員会

TEL 03-3865-3880 / FAX 03-3865-3879

E-mail : ans@zenshihoren.or.jp